人口減少社会における、まちづくり運営協議会の大切な役割は「地域活動の補完」＋α

総合教育会議資料
R7.2.13企画課

地域の活動【互助】

自治会

①親睦活動
- 地域、高齢者行事
- 地域イベント
- 集いの場

②安心安全
- 自主防災組織
- 災害時の実働対応
- 防犯灯の維持管理

③環境整備
- 除草、清掃
- 資源回収

④社会福祉活動・支えあい
- 慶弔活動（敬老行事、葬儀）
- 青少年育成、子ども会
- 高齢者の見守り
- 高齢者の移動
- 高齢者の買い物

⑤行政との連携
- 嘱託員
- 陳情や要望

⑥自治会組織の運営
- 自治会活動
- 共有施設の維持管理

地縁によって活動に参画

地縁組織との調整や連携

公民館講座・生涯学習講演会

個人の暮らし【自助(家助)】

自分らしい生き方・健康で豊かな暮らし

自己実現、自己肯定感、文化・芸術、教育機会の充実、雇用・所得、子育て、遊び・娯楽、デジタル生活、住宅環境、医療・福祉、身近な自然、起業・・・

現状
- 「公」の意識、「地域に帰属」しているという意識が薄れている。
- 「今、自分は困っていない」という無視できない壁の存在。⇒地域（互助）を意識できない。

政策課題への対応【公助】

行政(市役所)

公共交通、防災対策、環境問題、地域格差、地域医療、学校教育、社会教育、生涯学習、子どもの貧困、インフラ整備・・・

現状
- 「人口減少に対応する」という目的は明確だが、人口減少の原因は、社会環境や家庭環境などが複雑に絡み合っていて、それらの課題を個々に解決していくことが難しい。⇒成果が出にくい。

現状
- 人口減少や少子化、高齢化により顕在化してくる具体的な地域の課題に対応できる仕組みを持ち合わせておく必要があるが難しい・・・。
- これまでやれていたことができなくなる可能性。

新しいコミュニティの必要性

個人の希望に応じて参画
⇒人が集まらない・・

個々の課題に対応する手法
協働によるまちづくり
≠行革、役割分担という名の線引き

まちづくり運営協議会が地域の活動を「補完」

＋α

まちづくり運営協議会の活動により公共領域が広がった分（斜線部）だけ地域は豊かに。

A. 生活支援・移動支援
- デマンドバスの運行
- 有償ボランティア
  買い物支援、生活支援
- 互助の仕組みの継続支援

B. 価値観の転換に向けた取組み
- 農のある暮らし
- 都市的な利便性と身近な自然
- スローライフの実現
- 地域コミュニティの活性化のための講座やイベント

C. 自己実現、自己肯定感の向上に関する支援
- 自己承認（他己承認？）の向上
- やりがい、生きがいづくり
- 生涯学習

D. 子育て支援
- 地域の見守り
  地域との緩やかなつながり
- 多様性と寛容性

E. 健康で豊かな暮らし
- 生涯現役
- 各世代が集まる
- デジタル生活

項目	まちづくり運営協議会の生涯学習の取組み	行政の社会教育（人材育成）の取組み
目的	地域特有のニーズや住民交流の促進に重きを置いた活動	青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動
運営資源	まちづくり交付金、地域住民等の知識やスキル	公的予算、専門家等の知識やスキル
規模	小規模（小学校区が基本）で地域密着型	比較的広いエリアをカバー
プログラム内容	地域の特色を生かした内容が多い（小学校区の文化や伝統、健康増進など）⇒その後のアクションを期待	教育や社会問題などの広域テーマのほか、スポーツや趣味など多くの事項を扱う ⇒社会に還元
住民との関わり方	住民が自ら主体となり、双方向的な運営	住民の意見を参考にしながら行政側が主体的に提供
継続性	現状では、短期的な取組みになる可能性がある	中立性、継続性、安定性の確保が見込める
信頼性	地域の信頼関係に基づく親しみやすさ	公的機関の主催という信頼性